

新旧対照表について

	修正箇所	修正前	修正後	修正理由
1	P1 5行目	<u>保育・教育</u> の現場	<u>教育・保育</u> の現場	文言の統一
2	P1 中段	この考え方のもと、門真市では、就学前と就学後の <u>教育・保育</u>	この考え方のもと、門真市では、 <u>就学前教育・保育</u> と就学後の <u>教育</u>	文言の統一
3	P2.3		2. 門真市の教育以降すべて追記	第2回幼児教育振興検討委員会において、国の動きや門真市の教育の方向性などを追記してほしいとの意見があったため追記
4	P3 上段	「 <u>架け橋期</u> 」とは義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期	○「架け橋期」について ・ 義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期であり、この時期を「架け橋期」と言います。	事務局にて見直し
5	P3 下段		・ 特別な配慮を必要とする子ども（障がいのある子どもや外国人の子どもなど）を含む全ての子どもの可能性を引き出すため、ウエルビーイング（※）を保障する意識を持ちましょう。 （※）身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念	第2回幼児教育振興検討委員会において、子どもの幸せについては重要な視点であるという意見があったため追記

	修正箇所	修正前	修正後	修正理由
6	P4 上段		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは周囲の環境に自ら関わり様々なことを学びます。幼保小を問わず、先生（※）や周囲の大人は、子どもの思いや願いを踏まえ、その学びや生活を豊かにしていく存在です。 （※）幼児教育施設や小学校の管理職、幼稚園教諭、保育士、保育教諭、小学校教諭等 	第2回幼児教育振興検討委員会において、基本版に「子どもの意見を尊重する」文言を追記してほしいとの意見があったため、前文にも関連するような文言を追記
7	P5 上段	（「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」文部科学省より抜粋）	（「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」・ <u>「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～【概要】」文部科学省を参考に作成）</u>	3. 幼保小の架け橋プログラムとはについて、国の資料から全ての箇所では抜粋していないため、参考に作成に修正 また、参考作成先の追加
8	P10		6. 架け橋期カリキュラムの作成にあたって	事務局にて作成にあたっての留意事項を追記
9	P11 3つの資質・能力	知識 <u>及び</u> 技能	知識・技能	表記を統一
10	P11 年少児～年中児 配慮事項		・子どもの感じ方や伝えたいことを丁寧に受けとめる	第2回幼児教育振興検討委員会において、文言を追記してほしいとの意見があったため追記
11	P11 年長児 配慮事項	・子どもの話やその背後にある思いを聞き取り、	・子どもの話やその背後にある思いを聞き取った <u>り、</u>	事務局にて見直し
12	P11 年長児 配慮事項		・主体的に子どもが調べたり、考えたりできる環境を構成する	事務局にて見直し 「探究的な学び」につながる配慮事項を追記

	修正箇所	修正前	修正後	修正理由
13	P11 年長児 配慮事項		・間違ったり、失敗してもいいと思える環境（雰囲気）を作る	第2回幼児教育振興検討委員会において、文言を追記してほしいとの意見があったため追記
14	P11 年長児 配慮事項		・子どもの思いや意見を尊重する （否定的な意見も受けとめる）	第2回幼児教育振興検討委員会において、文言を追記してほしいとの意見があったため追記
15	P11 第1学年 配慮事項	・自分でできることは自分でという意識につなげるため、係や役割を <u>与える</u>	・自分でできることは自分でという意識につなげるため、係や役割を <u>考える</u>	事務局にて見直し
16	P11 第1学年 配慮事項		・様々な表現の言葉を学ぶことができるよう、表現遊びや言葉遊びの活動を取り入れる 2学期から1学期へ移動	事務局にて見直し
17	P11 第1学年 配慮事項	・自分の考えを言葉にできるように話し方の型をつくる	・子どもの思いや意見を尊重する （主体性の向上を促す）	第2回幼児教育振興検討委員会において、文言を修正してほしいとの意見があったため修正
18	P11 第1学年 配慮事項	・相手の考えを尊重することができるよう聞く姿勢の例を示したり、聞いた後の反応を言葉にできるようにする	・自分と異なる意見や考えを尊重する態度を認めていく 3学期から2学期へ移動	事務局にて見直し
19		見出し番号の変更		2門真市の教育が追記になったため2以降変更
20		すべて 友だち 一人ひとり	全て 友達 一人一人	表記を統一